

鶴寺工口伝

- 一 神佛を崇めずして伽藍社頭口にすべからず
- 一 伽藍造營には四神相應の地を撰べ
- 一 伽藍造營の用材は木を買はず山を買へ
- 一 山の木は土育の方佐のまゝに使へ
- 一 木組は寸法で組まず木の性癖を組め
- 一 木の性癖組は諸工女の心組
- 一 諸工女の心組は近長が工人への思ひやり
- 一 百工女には百念あり一に統ぶるが近長の敬意なり
- 一 百論一に止まるを正とす正なるは工なり
- 一 百論一に統ぶるの敬意なきは謹しき近長の
座とあるべし
- 一 諸々の杖法は一日おこなはず祖神徳を敬む也

鶴寺工口伝 終



鷓口伝説明

「神仏を崇めずして伽藍社頭口にすべからず」

人々の心のよりどころを建てるなら神仏を尊ぶ心を持って仕事に向き合うべし

「伽藍造営には四神相応の地を撰べ」

伽藍の造営には東西南北の神の棲む方位に適した場所を選ぶ

「用材は木を買わず山を買え」

木の質は土質によって左右され木の癖は山の環境によって生まれる

「木は生育の方位のままに使へ」

木の育った方位のまま建物に用いる

「木組は寸法で組まず木の性癖を組め」

木の癖を見抜き、その癖を活かして建物を造る

「木の性癖組は諸工人の心組」

心を一つに仕事に向かわせる棟梁の心構え

「諸工人の心組は匠長が工人への思いやり」

工人の心を汲んで一つにするためには棟梁に思いやりがなければいけない

「百工人には百念あり一つに統ぶるが匠長の器量なり」

各々の工人の思いをまとめるのが棟梁の器量

「百論一つに統ぶるの器量なきは謹み匠長の座を去るべし」

工人を一つにまとめられぬのなら棟梁を辞めよ

全ての責任は棟梁にある

「諸々の技法は一日にしてならず祖神の徳を蒙る也」

色々な技法を残し伝えてくれた先人や神に感謝し仕事に励む